

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

佳作 矢野 道子

鵲の翼^{つばさ}はげゆる仕種^{しむね}して幼^{わか}なに話^わす七夕の宵

佳作 枝川 照子

更新を続けろ更新廃車止め夢を叶えたまだ生
きられる

佳作 三澤 和子

暗示なく突然にくる頒^{わか}れにて六十五年の終止
符となる

佳作 賀上 花子

起きぬけに曾孫ら弾むミニプールはしゃげる
声は蝉と競いて

佳作 庄野 悦子

盆となり流れる星よペルセウス環りきたるか
逝きしたましい

佳作 青木 恭子

大輪の打ち上げ花火終わりたり西空に浮く淡
き三日月

互選 小西 千恵

初一つカチリと咬んで殻をとり実の張りでき
ばえ確かめる君

互選 米田 啓子

いつの日か吾の行く道幾万のどの星ならむ君
いる星は

互選 原 美智子

離島よりピンクのササユリ淡い香と潮の香抱
きて連絡船に

俳句

阿南市俳句連合会選

東條 明宏

よみがへる母への思ひ青葉木菟

阿部ますみ

田螺鳴く南海トラフの上に鳴く

大西 裕子

坪尻の駅は真下に山つつじ

中川よし子

行く春やモンゴルの歌聴いており

清原 栄子

満開の桜が包む農具小屋

藤本 弘子

春風や足神さんの大草鞋

小西 晴美

たんぼぼの絮そよ風が持つて行く

近藤 まい

キャンパスに農学部あり花大根

多田紀久代

卒業や英語の辞書の記念品

中分 明美

桃色の名札見せっこ入園児

川柳

阿南川柳会 鈴木レイ子選

西田 修身

仕舞風呂あくび3回今日のメ

佐藤つたえ

トントンカラリ深くて苦いなつかしき

滝川 太郎

リボンなどつけた尻尾にご用心

毎日が自由時計に頼らない
古時計家の歴史を知っている
再会を月下美人と待つ時計

田上 鶴子
多田紀久代
さつま浪漫

一般応募

子の手垢たつぷり付いた辞書を引く
夜の窓はぐれ螢に開けておく
何気ない助言があとで花と咲く
非常時へ備蓄している体脂肪

島尾美津子
仁井 信子
吉田 當代
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

緑陰閒話

緑陰深處汲清泉
品茗評詩最上禪
對話悠然忘塵事
天邊恰有過新鷗

緑陰 深き処 清泉を汲む
茗を品し詩を評す最上の禪
對話悠然 塵事を忘る
天辺 恰も 新鷗の過ぐる有り

池田 行子

出島野鳥公園

那川河口北堤傍
野鳥名園有定評
白鷺停杭覗池水
遠林睨皖老鶯聲

那川の河口 北堤の傍
野鳥の名園 定評有り
白鷺杭に停つて 池水を覗い
遠林睨皖たり 老鶯の声

田中 公

平島公方墓所を拝す

瑩域寂然懷往時
可憐亂世北風吹
京師文雅鄙人啓
兩兩相親那水涯

瑩域 寂然たり 往時を懐う
憐む可し乱世 北風の吹くを
京師の文雅 鄙人に啓き
兩兩 相親みし 那水の涯

松原 伸夫

※平島公方：足利將軍家の一族で、義冬（初代）から義
根（9代）までが平島荘に居住した。
※墓所：那賀川町赤池・西光寺 ※那水：那賀川

※睨皖：よい声で啼くこと